

オカピ通信

第6号
(2023年11月
活動まとめ)

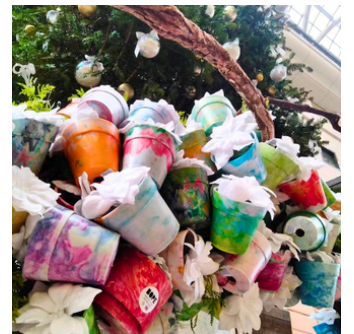
「循環」する

博多大丸でのクリスマスツリーのプロジェクトに参加しました



今年の博多大丸(福岡県)のイルミネーションの一部に、オカピが製作したフラワーポットが使われています。

▽イルミネーションのテーマは「循環」。廃棄プラスチックや海洋プラスチックを再利用した装飾をきっかけに、「循環」に関する多くのコミュニケーションが生まれることを目指しています。



国内外で作られたフラワーポットが装飾に使用されている

とを目指しています。展示は12月25日まで。フラワーポットは展示期間の終わりに来場者に配布される予定です。

▽イルミネーションの素材は、地域での小規模なプラごみ再生に取り組み、国内外のプレシヤスプラスチックの拠点が協同して提供しました。拠点同士のつながりも生まれました。

▽オカピは点灯初日のトークセッションとツリー点灯式にも参加しました。多くの方にもツリーを見ていただけて、感慨もひとしおでした。

新酒祭りに機械を貸し出し



若潮酒造(志布志市)で11月5日に行われた新酒まつりにて、新大隅青年会議所の皆さんにプラスチック再生の機械をお貸ししました。

▽イベント前日に機械一式を会場に運びこみ、機械の使い方をお授けしました。当日は、事前に集めていただいたプラごみを材料に、コースターとキーホルダーを作るワークショップをさせていただきました。コースターはハートの模様の素敵なアートになりました。

▽怪我人も出さず無事に初めての貸出を終えられて一安心。来場者の皆さんもほかほかのプラスチックを手に、笑顔いっぱいでした。

日吉中央公民館でお話

クイズも混ぜ、楽しく学びました

11月11日に日吉中央公民館で行われた日吉地区子供大会・読書大会で30分ほどプラスチックのお話をさせていただきました。吹上浜のプラごみの様子から始めて、リサイクルや地球温暖化とのつながりまで、幅広く話をしました。

後半はクイズコーナーにして、幅広い年齢の方が楽しめるようにしました。小学校低学年の参加者が多く、少し難しいかと思っておりましたが、最後まで離脱せずに楽しんでくれたようです。

fuuno(フーノ)、マルシェに初出店

南さつま市のNPO法人ふうでは、障害を持つ施設の利用者さんが手作業で海洋プラスチックを材料とした製品づくりに取り組んでいます。ブランド名は「fuuno」。オカピも製品開発に携わっています。

11月3日に南さつま市で行われたしやくしょマルシェで、初出店を果たしました。多くのお客さんが興味津々に手に取ってくださり、利用者さんもお店に並んだ製品を見て嬉しそうでした。

オカピの目

日置市立飯牟礼小学校で行われた国際理解教育の講座に講師として参加しました。JICA海外協力隊の経験者6名が児童(4、6年生)に海外での暮らしなどを話しました。

私は多民族国家であるマレーシアの人々がどのように民族間で協調して暮らしているかなどを説明。はじめはマレーシアの位置さえ知らなかった子供たちが、話の終わりにマレーシアを好きになってくれたようでした。

グローバル化が進んだ世界を生きる子供たちには、海外の人達も自分達と同じように日常を生きていることを忘れずにいてほしいです。

製作：岡田香織(サキガケ日置市(移)民) ご意見等は okadakaori.p@gmail.com まで。



fuunoの最新情報は、Instagram(fuuno_plastics)をチェックしてください